

(b)スタディツアー 「いのちの輝きを未来に伝える」ゼミ 生徒： 25名
A コース

概要：

「いのちと向き合うヒトに会う」
それぞれの探究にヒントをもらう旅。さまざまな場面・環境・立場でいのちと向き合う、
また、保身に情熱を傾ける人々に出会い、今後の探究活動が豊かなものになることを目的
とする。人生の先輩として生き方を学ぶ。

第1日目 ①

訪問先：もーもーランド

目的：畜産動物の飼育について知る
畜産動物とふれあう

活動内容：

- ・ 散策・体験などに参加（アヒル、ニワトリ、ヒツジ、ウシ、など）
- ・ 担当者の方に乳牛の飼育についてインタビュー

成果：

[生徒感想 抜粋]

- ・ 今は観光牧場だけれど、もともとは地域の畜産のために作られた施設だと知った。畜産動物は人の利益になるように作られた動物。改良してしまうのは人、のどかにしている動物を見て、いろいろ考えた。
- ・ 畜産動物がいる牧場で牛肉コロッケを食べたけど、いのちのことを考えた。オスは2年で、おいしい時期に殺されてしまうことを考えた。感謝しないとだめ。
- ・ 牧場はとても広くて景色も良くて感動した。動物たちも人に支配されているとはいえ、過ごしやすい環境なのかと考えた。
- ・ 教育関係の看板があって、人工授精でオスが生まれてしまったらかわいそうだが、肉牛にするしかない場合がある。豚はもともとイノシシで、肉を取りやすいように改造された。
- ・ 奈良の植村牧場とこの牧場での配合飼料について比較することができた。牧場や地域によって配合飼料と牧草以外の異なる野菜を配合していることがわかった。



第2日目 ①

訪問先：荒尾干潟 水鳥・湿地センター

目的：荒尾干潟の生物多様性を知る
干潟とともに生きる人々の生き方から学ぶ
干潟を体験する・楽しむ

活動内容：

[前半]

Aグループ：ボランティアガイドさんと干潟散策
ラムサール条約・干潟の生き物について

の説明

Bグループ：荒尾市役所環境保全課の皆さんと館内見
学・説明

干潟の生き物、干潟とともに生きる地域
の人々の暮らしについての説明

[後半]

Aグループ：荒尾市役所環境保全課の皆さんと館内
見学・説明

干潟の生き物、干潟とともに生きる地域
の暮らしについての説明

Bグループ：ボランティアガイドさんと干潟散策
ラムサール条約・干潟の生き物についての説明



の人々の

成果：

[生徒感想 抜粋]

・昔からの海苔の作る方法を教えていただいて、自分たちが何気なく食べているものや使っているものは誰かが努力してくださっているから、あるものなんだと初めて気づき、改めて「いただきます」のあいさつがとても大切だと思った。

・ラムサール条約を結ぶことで地域の皆さんが干潟のことについて多くの人に知ってもらい、干潟を守ろうとする活動が素晴らしいと思った。地域の方が渡り鳥が飛んできているのを見て嬉しそうにしているのが印象的だった。

・地域の方々が常に散歩のついでにゴミを捨ててくださっていることより、今の干潟の綺麗さがあると聞き、本当に驚いた。ゴミがあるから拾うのは当たり前と聞こえるかもしれないが、多くの人ができるものではないと思うからです。

・湿地センターの方から、昨年までいた生物が今年は見なくなり、絶滅したのではないかというお話を聞かせていただいて、何かしら私たちの行動で、環境を変えてしまっていると思った。改めて普段の自分の行動ひとつひとつを見直さなければならぬと思った。実際に干潟へ行って、ゴミが落ちていないことに驚いた。ボランティアの方々が拾いに来ているというのを知って、す



てきだと思った。私もあたりまえにすてきな行動ができる人になりたいです。

・ラムサール条約を結び、活動して水鳥の増加など、結果を残しておられるのがすごいと思った。現実を変えたくてもその行動や努力の仕方がうまくいかなかったり思いつかなかったりしてなかなか問題に携わる方法が見つからない私たちにとって、とても勉強になった。

・奈良県は海がないので海洋汚染を解決したいと思ってどうすべきかわからなかったが、川はたくさんあるので、川からきれいにしていこうと探究しているところでした。その方法があっているのか分からずに進めていましたが、湿地センターで川からゴミをなくしていくことが大切だとおっしゃっていて、やっていることが無駄ではなかったんだと再確認することができました。たくさんの方の応援をいただき、嬉しかったです。



第2日目 ②

訪問先：大牟田市立みなと小学校 下地 先生

目的：小学校の海洋教育の取り組み例に学ぶ

活動内容：

大牟田市教育委員会中村指導主事、大牟田市立みなと小学校下地教諭から、みなと小学校の海洋教育についての講演を聞く



成果：

[生徒感想 抜粋]

・みなと小学校では小学3年生の頃からSDGsについて学び、実際に行動をしていると聞いて、負けていけないなと思った。機会があればzoomなどで小学校の皆さんとSDGsについてお話ししたいです。

・何事も知識をインプットするだけではなく、ちゃんと行動に移していかなければ意味がないなと改めて考え直すことができました。

・各学校と調べたことをZoomで共有する、荒尾干潟で活動を行うなど、本格的というか、実践的なことをされていて、とても驚きました。高校生ももっと頑張らないといけないなと良い影響



も受けました。探究が進まなくて悩んでいましたが、講演を聞いて元気をもらって全部吹っ飛んでいった。

・自分たちの身の回りにある問題はどこから来ているのか、そして他の学校と情報を交換しながら解決策を導き出していくという活動にとっても関心を持ちました。

・水害に見舞われた出来事を嫌な思い出として消し去るのではなく、防災教育として伝えていかれることに感動しました。

・小学生が私たち高校生と同じような探究をしているところにすごく感心しました。海のゴミを改善するために川の上流からのゴミも原因の一つだと仮説を立て、川の上流 付近の小学校と連携して一緒に活動をしているということを小学生が行っていることがすごいと思った。

・小学3年生で知り、4年生で守る、5・6年生で活用する、がとても印象に残った。



第2日目 ③

訪問先：大牟田市動物園

目的：大牟田市動物園における動物福祉（環境エンリッチメント、ハズバンダリートレーニング など）の取り組みから、動物とどう向き合うかを考える

活動内容：

・大牟田市動物園 椎原園長による大牟田市動物園における動物福祉についての講演

・自由散策

ミッション1：椎原園長のお話を聞いて、動物園内の気になる取り組み・気になるもの、などを見つけ、写真を撮る（後日ゼミで共有）

ミッション2：「じ〜っと観察」気になる動物を10分、じっと観察する。わかったこと・気づきを記録（後日ゼミで共有）

成果：

・動物の気持ちを見ただけで判断するのではなく、5つの観点から総合的に見て判断する とおっしゃっていて、私も気持ち良さそうな顔をしていると勝手に思っていた時があったけれど、勝手に良いように解釈するのは動物を大切にするのは違うと思いました。もっと動物にも人にも優しくなりたいです。

・動物たちの習性に合わせたり居心地良く暮らせるように環境を作り替えておられたのが強く印象に残っています。

・ハズバンダリートレーニングなど動物が参加して初めて成り立つプログラムを、強制させるのではなく、動物自身に参加するかしないかを決めてもらうという活動に感動した。



動物に寄り添っていることに感動した。

・「動物の行動から気持ちを考える」が印象に残っている。なんの根拠もなく動物の気持ちを解釈していたが、行動から気持ちを考え接していこうと思った。「殺処分」について探究しており、ボランティア活動にも参加し、動物と触れ合う機会が増えたので、これらのことを生かしていきたい。



第3日目 ①

訪問先：くまもと☆農家ハンター

目的：「地域と畑は自分たちで守る」獣害の問題を農家の若者たちが立ち上がった農家ハンターさんたちに出会う、熱意を体感する
「いのちと向き合う」覚悟を学ぶ

活動内容：

- ・くまもと☆農家ハンター代表宮川さんの講演
- ・ジビエカレー昼食
- ・ジビエファーム見学
- ・耕作放棄地・箱罫設置場所見学
- ・宮川蘭農園見学、SDGsの取り組みについて
- ・駆除したイノシシの革でのキーホルダー作りワークショップ
- ・SDGs達成のためにできること発表会

<https://farmer-hunter.com/blog/2805>

成果：

[生徒感想 抜粋]

・蘭農園を見学させていただき、鉄の支柱ではなく、たけに変えていたり、鉢をコーンの芯で作っていたり、環境に優しい取り組みをされていて、こだわりを感じた。

・地域の人々のために挑戦・努力・失敗のなか、立ち向かい成功されてきたんだなと思った。私は間違えるのが怖いと思うことがあるが、我こそはと挑戦していきたい。

・何より皆さんがイノシシの命や地域の人々のことを思い、たくさんの時間をかけて活動しておられるその懸命さに胸を打たれました。私もこれから生きていく上で人のために何か行動にできるようにいつも心がけていきたいと思う。

・まずどんなことでも「やってみよう、やってみやな分かん」と思うようになりました。

・宮川さんのお話を聞いて、自分の探究活動への気持ちの浅さを知りました。自分は正直実践しているしいかな、と甘い考えをしていましたが、まだまだだなと感じることができた。

・「微力でも無力ではない」というのが高校生の私にすごく響いた。

・今まで気になることがあっても、つまらない質問だしいいや、と思ってしまい発言することを避けていたのですが、今回少し気になることがあったので、思い切って質問しました。すると、今までの発言をすることを躊躇っていた時間ももったいないなと感じるほどなんてことなかったし、スッキリしました。

・最後の時間に発表した、自分のSDGsのために守ることをこれからも大切に実践していこうと思います。

・「誰かがやるのを待つのではなく、自分から動かなければならない、微力でも無力ではない」という言葉がすごく心に響きました。口だけではなく実際に行動しているところもすごくかっこよくて、私もそうなりたと思いました。くまもと農家ハンターさんの覚悟もとても伝わってきました。

・今回の講演を聞いて自分に足りないのは行動力だと痛感しました。いろんな人と繋がって、仲間を作って問題に取り組むことが解決への糸口だとわかりました。





ゼミミーティング

毎日、活動終了後、宿舎に戻り、ミーティングを実施した。その日に学んだことを各ファミリーで話し合い、全体共有会を実施。生徒たちはその日を振り返り、ディスカッションしたり、メモにまとめたりしていた。また、この時間にデイリーチェックシートを記入した。

共有会の後、その日のメモを回収、スタディツアー後に返却。

最終日は今回の旅での学びについて、また、今後の活動についての思いをひとりずつ発表。

